# 令和５年度全国学力・学習状況調査における

# 北九州市立　　企救丘　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

## １．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## ２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

| 教科に関する調査（国語、算数） |
| --- |
| ①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等<br>②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 |

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

| 児童質問紙調査 |
| --- |
| ○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

## ３．教科に関する調査結果の概要

### (1)　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

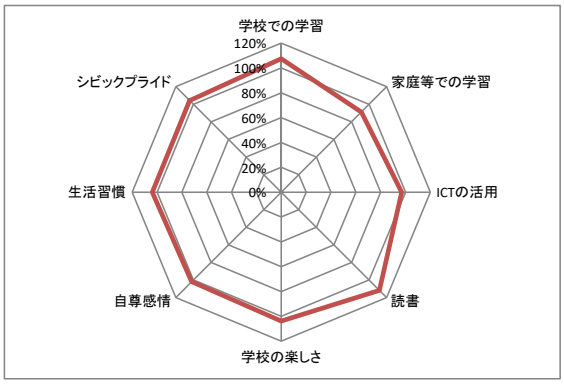
| 本年度の結果 | 国語 | | 算数 | |
|---|---|---|---|---|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 9.3 | 66 | 9.4 | 59 |
| 全国 | 9.4 | 67 | 10.0 | 63 |

### (2)　本校の学力調査結果の分析

| | | | |
|---|---|---|---|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 全国平均と比べて全体的に上回っている。知識及び技能に関しては、全国平均を大きく上回っており、思考力、判断力、表現力等に関しては、全国平均より少し高くなっている。 | 全国平均正答率との比較<br>上回っている |
| | よくできた問題 | 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。 | |
| | 努力が必要な問題 | 日常的によく使われる敬語の理解。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | 全国平均と比べて、全体的に少し下回っている。知識及び技能に関しては、全国平均を下回っており、思考力、判断力、表現力等に関しては、全国平均と同程度である。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
| | よくできた問題 | 「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る。 | |
| | 努力が必要な問題 | 正三角形の意味や性質についての理解。 | |

## ４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要




**質問紙調査の結果分析**

・本年度、朝自習や隙間時間に読書をする時間を取り入れたことで、「読書は好きですか」との問いに対して約８４％の児童が肯定的に回答しており、全国平均を上回っている。昨年度の約７３％から大きく向上している。
・学校の授業について、学んだことを生かしながら、課題を自ら解決し、自分の考えを発表することができたと感じている児童が多く、「学校での学習」を満足に行えている児童が、全国平均より高い。
・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」との問いに肯定的な回答をした児童が約６８％と全国平均よりも低かった。昨年度の約６７％からあまり変化がないため、自主学習などの取組をさらに進めていく必要がある。

## ５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

本校は、一部教科担任制を行っており、国語科と算数科は教科担任が行っている。それぞれの教員が教科の特性に合わせて工夫した学習を展開できていることがから、今回のような「学校での学習」に肯定的な回答が多くなったと考えられる。また、ICTやホワイトボードの活用により、個人思考を行った上で、全体共有する場を十分に確保できていることが結果に影響していると考えられる。今後は、結果をさらに伸ばすため、学習中の積極的な話合い活動の充実を図り、課題解決に向けて主体的に学習に取り組む姿勢を育んでいく。

②　家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習のスコアが低かった。本年度は、宿題に自主学習を取り入れるなど、家庭学習の充実を図ったが、十分な成果が現状得られていない。今後は、AIドリルによる個別の習熟度学習を家庭でも行えるようにしたり、自分で課題を見付けて取り組む学習を宿題で取り入れたりすることで、「学校からの課題」から「自分で興味のあること・挑戦したいことに主体的に取り組む学習」を浸透させていくようにする。